永江沢遺跡（範囲確認調査）

所　在　地　北設楽郡設楽町八橋字崩沢、下當門
（北緯35度6分26秒 東経137度33分54秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　平成28年5月

調査面積　124㎡

担　当　者　酒井俊彦・永井邦仁

調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　調査は、国土交通省による設楽ダム建設事業関連埋蔵文化財範囲確認調査として、愛知県教育委員会を通じた委託を受けて平成28年5月に行った。調査対象地の現況は、南西から北東へ下る耕作地と宅地跡である。

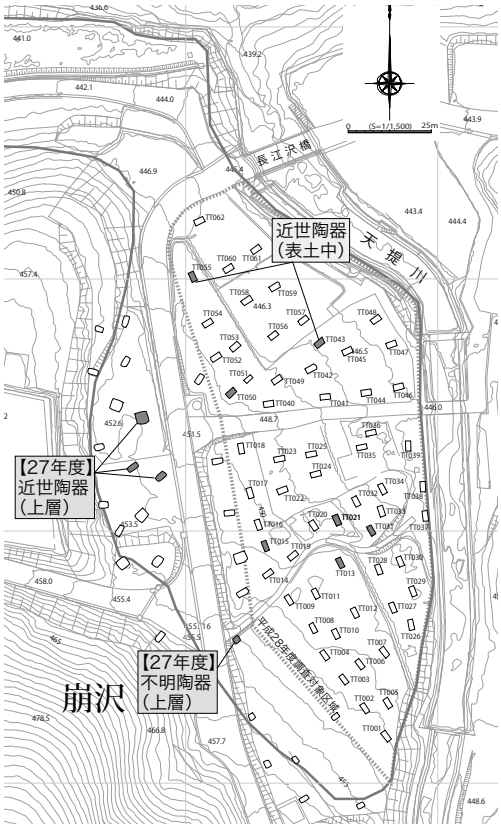
立地と環境　遺跡は、八橋地区にある。境川と天堤川の合流点から南へ延びる谷地形の東向き斜面に立地する。斜面地は南北約300mに及び、北端の長江沢橋付近は河川堆積による平坦面となっている。天堤川はこの斜面を迂回するように流れているが、「崩沢」という地名があることから、比較的最近の斜面崩壊によってできた地形と考えられる。

調査の概要　範囲確認調査は、平成27年度の調査対象地から下位の斜面地で行われた。トレンチは全て1×2mである。林道付近から斜面上位では、近世の遺物が若干出土していたが、今年度はTT013・021・031・043・050・055で近世後半を中心とする時期の陶磁器が出土した程度である。また顕著な遺構もなく、土層は耕作土直下で礫混じりのシルト層がみられる。この層は斜面崩壊に関わるものと推測され、これが広範囲にみられることから、遺跡はあまり良好な残存状態ではないと考えられる。

（永井邦仁）

遺跡南部の現況（北西から）

調査風景（西から）



永江沢遺跡範囲確認調査成果（1:1,500）